

## 令和7年度

## 日本語ボランティアスキルアップ講座 in 刈谷市

開催日時：全2回 第1回 令和8年2月22日(日) 12:30~15:30

第2回 令和8年3月1日(日) 12:30~15:30

会場：刈谷市国際プラザ(刈谷市民交流センター)

講師：第1回 澤田幸子<sup>さわださちこ</sup>氏(合同会社おおぞら日本語サポート副代表)第2回 和田貴子<sup>わだたかこ</sup>氏(一般社団法人 HORIZOPIC 代表)

参加者：大人向け日本語教室で活動しているボランティア

第1回 申込者35名/参加者32名 第2回 申込者35名/参加者31名

主催：(公財)愛知県国際交流協会 交流共生課 交流共生担当

共催：刈谷市国際交流協会

## 令和7年度日本語ボランティアスキルアップ講座 in 刈谷市を開催しました。



第1回講師 澤田幸子氏

今回の目標は、テキストを活用した模擬授業を体験しながら、学習者が生活日本語を学べるよう、寄り添った授業の組み立てを考えることです。あわせて、テキスト教材による活動の広げ方を参加者で検討し、地域の日本語教室の役割を見直しました。

講師からは、地域の日本語支援は、学習者が自分の気持ちをより多く伝え、地域で楽しく過ごすための「話す実践の場」であるとの説明がありました。また、ボランティアには、学習者と積極的に関わる伴走者としての役割が期待されている、とのことでした。

さらに、学習者には生活のための日本語を優先し、一人ひとりのニーズに寄り添うことの重要性をお話いただき、そのために、テキストにとどまらず、学習者の「学びたいこと」を引き出す姿勢が求められるということにも触れていただきました。



第2回講師 和田貴子氏

第2回の講義では、地域における日本語教育の役割が、単なる「言葉の知識の伝達」から、「多様な背景を持つ人々が共に生きるための社会参加の鍵となる場」へと大きく転換していることを学びました。また、日々の活動の中で「日本語は何のためにあるのか」「言葉は何のためにあるのか」を問い続け、自らの実践を振り返ることの重要性について理解を深めました。

さらに、日本語教室でテキストを活用する際には、それぞれのテキストが持つ目的や特徴を十分に理解し、活動の目的に応じて適切に活かすことが重要であるとのことでした。その上で、日本語は生活のための手段であるという前提に立って活動を行うことの大切さについても再認識できる講座となりました。



グループワークの様子

## 【受講者の感想など】

「文字を読むことが中心だったので、話すことに重点を置くことが分かった。」「学習者のニーズについて、言語化されていない部分も多いと思うので注意深く探っていきたい」「文法積み上げ型と対話型などいろいろあるが、良いところを組み合わせれば良いと分かった」「地域の日本語教室が考えなければならないことを改めて考える機会になりました」等の感想が寄せられました。

今後の支援活動につながる学びのある時間となりました。

